

演劇鑑賞「走れメロス」(2024.11.11)

11月11日(月)午後、本校体育館にて観劇会を行いました。

本校では、毎年10～11月に観劇会を実施しており、受験勉強追い込みの高3を除いて、中1～高2の生徒が生舞台の魅力を味わっています。

今回の作品は東京演劇アンサンブルによる「走れメロス」。1976年初演の舞台で、本校でもかつて上演したことがありました。体育館備え付けステージではなく、フロアに舞台を作り、観客の間に走路を設ける、という特殊な上演形態で、その走路を30周以上も走り続けるという、俳優さんにとってかなり過酷な作品です。太宰治の原作にもとにしながら、大波や嵐の描写、鮮やかな照明、俳優さんが自ら奏でる音楽等、演劇ならではの表現の工夫に満ちたステージでした。

演者と観客の距離が近く、へとへとになりながら走り、踊り、演じ続ける俳優さんの迫りに圧倒され、生徒たちは80分間食い入るように見入っていました。

「あの『走れメロス』をいったいどのように劇にするのか」と思っていた生徒たちにとって、想像を上回る熱量のこもったステージで、カーテンコールは大きな拍手に包まれました。

終演後コロナ禍以後初めて、劇団の俳優さんを囲んでの座談会が行われました。楽しく活発な意見のやりとりは1時間にも及び、こちらも熱っぽい座談会となりました。

中学3年生やバレーボール部員も片づけをお手伝いして、非日常の劇場はいつもの体育館へ戻り、今年の観劇会が終わりました。

